

大阪大学図書館報

Vol.31 No.4 March 1998 (平成10年) 通巻 128号

目 次

- 大阪大学附属図書館と電子情報サービス
 - ・大阪大学附属図書館データベース検索システム
 - ・電子展示について
 - ・図書館ホームページのアクセス状況
 - ・その他の動き
- 図書館職員研修会
- 教官著作寄贈図書
- お知らせ
 - ・本館グループ学習室オープン
 - ・本館のサービス時間の変更等
 - ・新着逐次刊行物リストを公開(生命科学分館)
 - ・生命科学分館でCD-ROMソフトの追加
- 会議・日誌

大阪大学附属図書館と電子情報サービス

1. 大阪大学附属図書館データベース検索システムについて

附属図書館では、平成7年7月から、学内LAN(ODINS)を介してのデータベース検索サービスを、「学術情報検索システム」(仮称)として試行的に実施してまいりました。

この間、利用件数は順調な伸びを見せ、平成9年度においては、ログイン数約596万(2月まで、Windows-NTサーバのデータベースを除く)を数えるという実績になっております。

このサービスについては、すでに通知文書、カレントニュース、WWWなどでお知らせしておりますように、このたび「大阪大学附属図書館データベース検索システム」として本格運用を開始することになり、平成10年度から利用者負担を導入することになりました。図書館内の端末からは、従来どおり無料でご利用ができますが、研究室等、図書館以外からご利用される場合は、校費により料金の負担が必要になります。今までの利用者の方も、平成10年度以降にデータベースサービスを利用

するには、改めて利用申請が必要です。

図書館では利用者負担の導入を機に、利用者にとってより使いやすい利用方法を検討しております。ゲストIDも用意しましたので、今までデータベースサービスを利用されたことのない方も、ぜひ一度お試しください。

<利用者負担導入の経緯>

- 昨年7月、図書館委員会で審議。データベースサービスをめぐる財政事情から、利用者負担導入の方針を決定。電子情報サービス検討委員会を新設し、具体的方法を検討することにした。
- 電子情報サービス検討委員会を昨年9月から本年1月にかけて3回開催。利用者負担について、各種の方法を比較検討した結果、以下の方針を決定。
 - 1)課金方法：年間定額
 - 2)徴収方法：校費振替
 - 3)利用単位：研究室等
 - 4)料金：データベースの分野別にグループ化し、料金を設定。
 - 5)その他：平成11年度利用料金額は、平成10年度実績により再度見直し。
- 有料化に伴い、利用要項、申請方法等を新たに策定。
- 本年1月の図書館委員会で、上記利用者負担の方法を了承、決定。

<利用申請の受付>

- 申請単位 校費による利用のため、研究室等を単位として申請してください。
- 期間 随時受け付けています。
- 申請書 図書館本館、分館、各部局図書室の窓口に備えています。
また、「申請案内のページ」からも入手できます。(学外からはアクセスできません)
- 申請先 附属図書館情報サービス課参考調査掛宛に送るか、各図書館・図書室窓口に提出してください。
- 新IDの発行 新しいIDは、申請内容を確認の後、随時発行いたします。

<移行期間>

4月から5月までを移行期間とします。この期間中は旧IDも引き続き使えます。6月からは旧IDは使用できませんので、継続利用される方は5月末までに利用手続きをとってください。

<ゲストID>

利用申請をする前にデータベースを試用してみたい方のために、ゲストIDを準備いたしました。

ゲストIDの内容、注意事項等、詳細については、「ゲストIDのご案内」のページ(学内専用)をごらんください。

<Q&A>

Q: IDを複数申請した場合、利用料金は利用区分料金×ID数となるのでしょうか？

A: そのとおりです。区分料金が15,000円でしたら、区分内のデータベースの数とはかかわりなく、二つのIDで30,000円、三つのIDで45,000円になります。

Q: 複数IDを申請した場合、ID数と同じ数だけのIDが発行されるのでしょうか。それとも一つのIDで同時接続数が増えるのでしょうか？

A:ERL システムと Windows NT システムで、複数 I Dを申請された場合の発行方法は異なります。ERL システムの場合は、基本的に一つの I Dで、希望数に応じた同時接続数が設定されます。また、Windows NT の場合は、希望数の数だけの複数 I Dが発行されます。また、同一区内に複数のデータベースがある場合、ERL システムの場合は一つの I Dで同時使用できますが、Windows NT システムの場合は、データベースごとに別々の I Dが発行されます。

Q:研究室内で、一つの I Dを複数のメンバーで共用することは可能ですか？

A: I Dは基本的に研究室内で共用していただくことになっておりますので、もちろん可能です。I Dの使用者は、研究室内で決めていただくことになります。また、I Dの数は、実質的には「同時アクセス可能数」となりますので、I Dを複数申請されていれば、複数の機器から同時に同じデータベースの検索ができます。(ただし、データベースごとに同時接続数の上限が設定されておりますので、利用状況によっては、I Dが全部使用できないこともあります。)

Q: I Dは、同一 I Pアドレス (同一コンピュータ) でしか利用できないのでしょうか？

A:使用する機器は特定されませんので、学内 (133.1で始まるIPアドレス) からであればどの機器を使っても接続が可能です。

Q:区分ごとに一つの I Dを申請した場合、同時に別々の機器から別々の I Dを使用することは可能でしょうか？

A:ERL システムと Windows NT システムのデータベースを、複数の機器で同時に使う (例えば Medline と CA を同時に使う) ことは可能です。ERL の別々のデータベース (それぞれ同時接続数 1) を、別々の機器から同一 I Dで同時に使う (例えば Medline と Compendex を同時に使う) ことは原則としてできません。

平成 10 年度のデータベース検索システムの利用を希望される方は、早めに申請をお願いします。

2. 電子展示について

○懐徳堂関係資料の電子化について

前号でも簡単にお知らせしましたが、附属図書館では昨年 11 月の第 2 回貴重書展示会開催にあわせて、懐徳堂資料の一部を電子化し、図書館ホームページで公開しました。

現在公開している電子展示の内容は、2 部に分かれています。

一つは、1994 年に懐徳堂友の会、懐徳堂記念会が共同出版 (発売: 大阪大学出版会) した図録『懐徳堂: 浪華の学問所』の主要図版を画像ファイル化したものです。本書が編集された当時に、図版の原版に使ったフィルムを元にフォト CD を作成し、そのデータをさらにネットワーク上で表示できる画像形式 (JPEG) に変換しました。また、フィルムが残っていないものについては、新たに撮影して、フォト CD 化しました。フィルムの中には画質が劣化しているものもあったので、見やすい画像になるよう、コントラストや鮮明度を調整してあります。

もう一つは、『学問所建立記録』、『非徴』、『越俎弄筆』など、江戸時代に出版された懐徳堂関係の資料を、表紙から巻末まで全文画像データに収めたものです。こちらは新たに撮影し、フォト CD 化して、同じように JPEG 形式に変換しました。

なお、この電子展示で公開している JPEG 形式の画像データは、ほとんどがフルカラーです。パソコンでご覧になる場合は、表示色数を 32,000 色以上にした方が鮮明に表示されます。

図書館では今後も懐徳堂資料やその他の貴重図書の電子化を進めていくことが必要と考えております。

○インターネット上で見ることができる貴重資料の電子展示

本学の電子展示はまだ公開して日も浅く、内容もそれほど多くはありませんが、WWWには、すでに多くの機関が公開した豊富な貴重資料の画像データがあります。その中から、特色のあるものをいくつか紹介します。

・北海道大学附属図書館北方資料室 北方資料展示室

<http://ambitious.lib.hokudai.ac.jp/hoppodb/musium/index.html>

「吹上秘書漂民御覧之記」「辺要分界図考」などの江戸期の資料の全ページを見ることができます。また、キーワードや人名から北方資料室の目録を検索できるデータベースもあります。

・東北大学附属図書館 貴重書展示室

<http://www.library.tohoku.ac.jp/kichosho/kicho/kicho/kichosho.html>

12のジャンルに分類して多くの貴重書の画像データを提供しています。ジャンルの中には「国宝・大蔵経」や「漱石文庫」(夏目漱石の日記・手帳ほか)など特色あるものが見られます。

・筑波大学附属図書館 貴重書展示室常設展

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/jyousetu/frontpage.html>

館内の展示室で実際に展示されている「日本の出版文化」等の電子版です。『サビエル伝』や『解体新書』等の展示品が画像つきで解説されています。また、特別展のページもあります。

・幕末・明治期古写真等資料展 (東京大学附属図書館)

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/junkai/>

国立大学図書館協議会公開事業として企画された巡回展示会の電子版で、東京大学附属図書館が提供しているものです。実際の展示会は、福島大学、国立磐梯青年の家、筑波大学、九州大学、北海道大学、長崎大学で開催されました。北海道大学、筑波大学、九州大学ではそれぞれ関連して電子展示を公開しています。

・京都大学附属図書館所蔵 貴重資料画像データベース

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/index.html>

国宝の「今昔物語集」をはじめ、重要文化財やその他の貴重書の全ページ画像データが公開されています。また、様々なフィルムや現像方式による画像データの比較が実見できる、「古文書画像データ作成テスト」のページもあります。

・岡山大学附属図書館 池田家文庫 絵図類

<http://www.cc.okayama-u.ac.jp/user/li/tokushub/tokushub.html>

岡山大学の所蔵する旧岡山藩主池田家の藩政資料、「池田家文庫」の中の絵図類を電子化したものです。池田家文庫の絵図類は2,700点にのぼるということですが、現在のところはその中の国図、郡図など614点、1,444画像が公開されています。

その他にも、東京学芸大学附属図書館の「双六コレクション」、明治大学図書館の「蘆田文庫古地図コレクション」、奈良県立図書館の「絵図展示室」など、特色ある電子展示が全国で公開されていますが、スペースの関係で個々の説明は省略します。下記の表を参考に、興味のある方は一度アクセ

スしてみてください。

WWW上で見ることのできる貴重書電子展示（1998年3月現在）

作成機関	ページの名称	URL
国文学研究資料館	電子資料館	http://www.nijl.ac.jp/infocenter.html
北海道大学附属図書館	北方資料マルチメディアデータベース	http://ambitious.lib.hokudai.ac.jp/hoppodb/index.html
	貴重図書などの電子閲覧室	http://ambitious.lib.hokudai.ac.jp/collection/index.html
東北大学附属図書館	貴重書展示室	http://www.library.tohoku.ac.jp/kichosho/kicho/kicho/kichosho.html
筑波大学附属図書館	主要文庫・コレクション	http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/collections/index.html
	貴重書展示室常設展	http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/jyousetu/frontpage.html
千葉大学附属図書館	コレクション	http://www.ll.chiba-u.ac.jp/
東京大学附属図書館	マルチメディア展示会	http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/tenjikai/index.html
東京工業大学附属図書館	電気・磁気学古典コレクション	http://www.libra.titech.ac.jp/tomash/tomash_home_j.html
明治大学図書館	特殊資料紹介	http://www.lib.meiji.ac.jp/biblio/index.html
東京学芸大学附属図書館	双六コレクションデータベース	http://library.u-gakugei.ac.jp/lbhome/sugoroku.html
国立国会図書館	NDLぎやらりー	http://www.ndl.go.jp/gallery.html
実践女子大学図書館	第1回電子展示 奈良絵本	http://www.jissen.ac.jp/library/documents/etenji/tenji1.htm
日本福祉大学付属図書館	草鹿文庫	http://www.handy.n-fukushi.ac.jp/lib/tokubetu/kusaka/index.htm
岐阜大学附属図書館	奈良絵本「小しきふ 上・下」	http://libmulti.lib.gifu-u.ac.jp/koshiki/
富山大学附属図書館	特殊コレクション案内	http://www.toyama-u.ac.jp/tya/library/collectJ.html
京都大学附属図書館	貴重資料画像データベース	http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/index.html
	蔵経書院本データベース	http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/catalog/ZOUKYOU.html
関西大学図書館	特別コレクションの紹介	http://www.kansai-u.ac.jp/Library/home.htm
大阪教育大学附属図書館	昔の教科書展	http://www.lib.osaka-kyoiku.ac.jp/annai/kyokasho.html
大阪大学附属図書館	電子展示で見る懐徳堂	http://www.library.osaka-u.ac.jp/tenji/kaitokudo/kaitoku.htm
岡山大学附属図書館	池田家文庫	http://www.cc.okayama-u.ac.jp/user/li/tokushub/tokushub.html
広島経済大学図書館	稀覯本その他	http://www.hue.ac.jp/lib/Rareother.htm
愛媛大学附属図書館	所蔵資料紹介	http://www.lib.ehime-u.ac.jp/HTML/shozo.html
香川大学附属図書館	所蔵資料案内	http://www.kagawa-u.ac.jp/lib/shozo3.html
九州大学附属図書館	電子展示会	http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/index.html
長崎大学附属図書館	幕末・明治期の古写真仮想展示会	http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/old_pic/index.html
秋田県立図書館	秋田県立図書館所蔵の貴重資料	http://air.akita-u.ac.jp/apl/monjo.htm
富山県立図書館	エレクトリックコレクション、貴重書・古文書の紹介	http://www.tkc.pref.toyama.jp/lib/
石川県立図書館	貴重図書の美術館	http://www.pref.ishikawa.jp/library/museum.htm
奈良県立図書館	図書館所蔵絵図展示室	http://www.library.pref.nara.jp/

3. 図書館ホームページのアクセス状況

1996年4月に附属図書館ホームページが公開されて、3年目を迎えようとしています。この間、電子雑誌や電子展示などの新しいページも増え、昨年7月からは本館、生命科学分館、吹田分館それぞれのホームページも公開されています。

昨年4月からのアクセス状況を簡単にまとめてみました。

97年4月から本年2月までの図書館WWWページへのアクセス数は、全体のページと本館分を合わせて約159,000件、この内、学内からのアクセスは約90,000件(57%)、学外からのアクセスは約69,000件(43%)でした。ホームページだけに限ると、アクセス数は約39,000件、その内学内からのアクセスは約26,000件(67%)でした。なお、図書館内からのアクセスはこの数字には含まれていません。

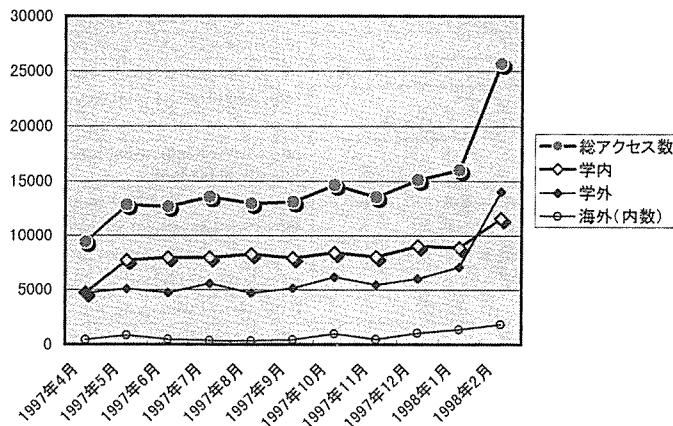
アクセス数は月によって多少増減はありますが、全体としては増加しており、4月と2月のアクセス数を比べますとおよそ3倍近くに増えています。特に1月に電子展示を公開して以後は、学外から

のアクセスが大幅に増えています。

また、学外からのアクセスの中には、アドレスから見て海外からのアクセスと思われるものが約8,400件（全体の5%）含まれています。その大半は検索ロボットによるアクセスのようですが、海外の大学等からのアクセスもある程度コンスタントにあるようです。

生命科学分館のページへの昨年7月から本年2月までのアクセス数は、約8,800件（学内約2,900件）、同じく吹田分館のページは約4,700件（学内約2,600件）でした。まだ存在があまり知られていないせいか、全体に比べればアクセス数は少ないのですが、徐々に増えています。生命科学分館は、全体と比べて学外からのアクセスの比率が非常に高いのが特徴です。

図書館ホームページ(全体及び本館分)アクセス数統計



アクセスの多いページ・ベスト10

順位	ページの内容	総数	学内	学外
1	ホームページ	39,154	26,240	12,914
2	OPACのページ	19,019	13,395	5,624
3	学外の情報サービス	9,142	5,553	3,589
4	学術情報検索システムのページ	8,814	5,896	2,918
5	雑誌のページ	6,710	4,706	2,004
6	電子ジャーナル	5,805	5,247	558
7	お知らせのページ	3,040	1,402	1,638
8	サービス中のDB一覧	3,007	2,073	934
9	学術情報検索システム利用案内	2,329	1,700	629
10	雑誌情報へのリンク集	2,310	1,098	1,212

2月のアクセス回数だけをとってみても、図書館報やカレントニュース等の印刷媒体の部数を上回っており、ホームページはすでに図書館の重要な広報手段となっていることがわかるとともに、日常的なメンテナンスの必要性が痛感されます。

4. 電子情報をめぐるその他の動き

・新着逐次刊行物リストのWWW上での提供（生命科学分館）

生命科学分館では、1週間分の新着外国雑誌リストを1998年2月からWWW上で公開しています（本号のお知らせも参照）。このリストは、業務用のデータベースから、対象となるデータを抽出し、HTML形式で編集し、作成されています。一連の作業は、起動以外をほぼ自動化し、毎日、約1～2分で簡単に操作できるように設計されています。

同分館に到着した雑誌の一覧リストを提供することにより、雑誌の到着状況の確認等に利用される

ことを期待しています。

・図書館内でのパソコン、インターネットの利用（生命科学分館）

附属図書館学術情報検索システムの利用増加、CD-ROMの参考資料の増加に合わせて、館内で利用できるパソコンの整備に努めています。また、近年、インターネット上に有用なサイトが増えてきていますので、WWWブラウザが利用できるパソコンも設置しています。今後は、CD-ROM・フロッピーディスクの資料・情報の提供、コンピュータ・ネットワーク上の情報の入手・提供の充実が課題だと考えています。

・吹田分館の広報活動：「電子情報サービス利用の手引」の発行について

図書館サービスを取りまく電子情報化の波もどんどんその速度を増しています。

ODINS経由で、図書館ホームページからもWWW版OPAC（蔵書目録）の検索が可能になりました。又、学術雑誌のCD-ROMデータベース、コンテンツ情報、全文データベースの検索、学外の主要データベースの検索が可能になっています。以前から、JOIS、Dialog等図書館での代行検索も行っています。

これら図書館で行っているサービスをもっと知っていただくために、この度、「電子情報サービス利用の手引：PR版、詳細版」を作成いたしました。吹田地区工学系部局の研究室には、既に配布していますので、是非ご覧になって図書館のサービスを一層ご利用いただきたいと思います。

・情報処理教育センターの端末配置

今号のお知らせにもありますように、図書館ではこのたび本館・分館に20台の情報処理教育センターの端末を配置しました。この端末からは、ブラウザを使って図書館WWWページやOPACを見ることが出来ます。図書館から提供する電子情報サービスを利用する手段としても活用していただければと考えています。

これらの動きのほか、図書館では平成4年度より目録データの遡及入力も進めています。また、電子化情報は非常に変化が激しい分野で、本学図書館でもこれから新しい動きが出てくることが考えられます。それらについては、また別の機会に館報等で紹介します。

図書館職員研修会開催

本年度の図書館職員研修会が、1月29日（木）に本学の図書館職員と近畿地区国公立大学図書館職員合わせて83名の参加者を得て、附属図書館生命科学分館のAVホールにおいて開催されました。

研修会は、本学の情報処理教育センターの中西通雄助教授が「情報処理教育と大学図書館」と題して、また、元関西大学教授で京都大学附属図書館等での現場経験も豊富な岩猿敏生先生が「大学図書館の過去・現在・未来」と題してそれぞれ講演されました。

中西先生は、本学の図書館、大型計算機センター、情報処理教育センターが機能的に連携することによる大学の情報基盤形成の必要性を説かれる等将来の図書館の有り方を示唆され、また、岩猿先生は、図書館の歴史的研究の意義と大学図書館史について説かれ、講演終了後の質疑応答では、参加者から多くの質問があり、この研修会は感銘深いものとなりました。

■■■■■ 教官著作寄贈図書 (1997/Oct.-1998/Feb.) ■■■■■

——本館——

岩橋 健定 (法学部、講師)
NEPA と意思決定理論：環境アセスメントと行政
の政策決定/岩橋健定著
東京：東京大学都市行政研究会，1994 (東京大
学都市行政研究会研究叢書；8)

野島 博 (微生物病研究所、教授)
遺伝子工学への招待/野島博
東京：南江堂，1997

田村 坦之 (基礎工学部、教授)
効用分析の数理と応用/計測自動制御学会編；田
村坦之ほか著
東京：コロナ社，1997
○基礎工学部図書室にも寄贈
Advances in production management systems :
perspectives and future challenges/edited by
Norio Okino, Hiroyuki Tamura, Susumu Fujii
London : Chapman & Hall, 1998
○基礎工学部図書室にも寄贈

林 毅 (法学部、教授)
ドイツ中世自治都市の諸問題/林毅著
東京：敬文堂，1997

——生命科学分館——

倉智 嘉久 (医学部、教授)
Molecular physiology and pharmacology of car-
diac ion channels and transporters/edited by
M. Morad ... [et al.].
Dordrecht : Kluwer, c1996. (Developments in
cardiovascular medicine ; v. 182)

荻原 俊男 (医学部、教授)
高血圧の世紀：1896-1996/ニコラス・ポステル-
ビネイ編集；桧垣実男編集責任
東京：先端医学社，1997
日本語版監修：荻原俊男

北村 幸彦 (医学部、教授)
新病理学入門/北村幸彦，青笹克之編
東京：南山堂，1997

白倉 良太 (医学部、教授)
コーディネーターのための臓器移植概説/白倉良
太〔ほか〕編集
東京：日本医学館，1997
監修：若杉長英

——吹田分館——

足立 吟也 (工学部、教授)
New development of studies on rare earth com-
plexes/editors: G. Adachi ... [et al.]
Suita : The Rare Earth Society of Japan, 1997

西原 浩 (工学部、教授)
裏 升吾 (工学部、助手)
光エレクトロニクス入門/西原浩，裏升吾共著
東京：コロナ社，1997 (光エレクトロニクス教
科書シリーズ；1)

北川 浩 (工学部、教授)
中谷 彰宏 (工学部、助教授)
初心者のための分子動力学法/北川浩〔ほか〕編
著
東京：養賢堂，1997
その他の編著：北村隆行，澁谷陽二，中谷彰宏

土岐 博 (核物理研究センター、教授)
解いて分って使える微分方程式/土岐博著
東京：共立出版，1997

白井 良明 (工学部、教授)
挑戦：知能化する機械/日本機械学会編
東京：養賢堂，1997
執筆：白井 良明ほか

— 理学部図書室 —

海崎 純男 (理学部、教授)

無機化学/B. E. Douglas, D. H. McDaniel,
J. J. Alexander [著]; 日高人才, 安井隆次, 海崎
純男訳. -- 第3版

東京: 東京化学同人, 1997

— 微生物病研究所図書室 —

菊谷 仁 (微生物病研究所、教授)

Leucocyte typing VI: white cell differentiation
antigens/ed. by Tadamitsu Kishimoto, Hitoshi
Kikutani et al.

Garland Publishing Inc., 1998

■■■■■ お知らせ ■■■■■

○本館グループ学習室オープン

本館では、昨年12月に、玄関を入ってすぐ右側の視聴覚室の隣に、グループ学習室をオープンしました。既存の共同研究室に準じた利用の場として、グループによる学習、研究又は教育を行う場合に利用できます。

利用を希望される方は、閲覧カウンターまで申し出て所定の手続きをしてください。人数によっては、他のグループと同時使用する場合がありますが、ご了承ください。

○情報処理教育センターの端末増設

3月より、本館2階の第2開架図書閲覧室前に、情報処理教育センターの端末が10台増設され、1階の第1開架図書閲覧室前に既設の10台とあわせて20台となりました。また、生命科学分館、吹田分館にもそれぞれ5台の端末が新設されました。ご利用ください。

利用方法等については、情報処理教育センターにお問い合わせください。

○本館のサービス時間の変更等

本館では、平成10年度より、夏季休業期間中の9月の月～金の開館時間が延長され、9時から21時までとなります。

また、授業期間の月～金の貸出の受付時間と書庫棟・書庫棟個室及び共同研究室等の利用時間が延長され、9時から20時30分までとなります。夏季休業期間中の7月と9月の月～金についても、9時から閉館の30分前までに延長されます。

それ以外の授業休業期間並びに3月の月～金についても、受付及び利用は9時からとなります。

○Chemical Abstracts 累積索引の予算化、検索サービス開始予定

平成9年度教育研究学内特別経費により、Chemical Abstracts累積索引 (Collective Index) の購入が認められました。生命科学分館及び理学部図書室に冊子体を配置するほか、抄録付のCD-ROMを附属図書館データベース検索サービスのメニューに加えます。

これにより、検索可能な Chemical Abstracts のデータは、1987年以降の10年以上、約700万件に一挙に拡大します。詳しくは、図書館ホームページでお知らせしますので、ご覧ください。

○新着逐次刊行物リストの公開 (生命科学分館)

生命科学分館では、1週間分の新着外国雑誌リストをWWW上で公開しています。生命科学分館ホームページ

(<http://www.library.osaka-u.ac.jp/seimei/>) からご覧いただけます。

収録対象は、同分館に所蔵するもので、和雑誌・華韓誌は除きます。(詳しくは、新着逐次刊行物リストのページからHELP画面をご覧ください。)

毎日更新していますので、雑誌の到着状況の確認などにご活用ください。

○生命科学分館でBiological Abstracts.1997等、
CD-ROMソフトの追加

生命科学分館1階のCD-ROM検索コーナーに、Biological Abstracts on CDとBiological Abstracts/RRM on CDの新しい版を追加しました。昨秋より、BA on CD (1980-1996)、BA/RRM on CD (1989-1996) が利用できるようになっていましたが、この度、1997年版も利用できるようになりました。おおいにご利用ください。

また、下記のCD-ROMが追加されました。

- ・ブリタニカ国際大百科事典 小項目版 (同名冊

子体, 大項目版のCD-ROM版)

- ・マルチメディア人体 (NHKスペシャル「驚異の小宇宙・人体」シリーズを元にした、人体のしくみを学習できるCD-ROM)
- ・現代用語の基礎知識 1997
- ・JICST資料所蔵目録 1997年版
- ・Dictionary of carbohydrates. 1998
- ・日経バイオ最新用語辞典, 1995
- ・先天性奇形症候群および遺伝性疾患データベース 改訂第2版

■■■■ 会 議 ■■■■

電子情報サービス検討委員会

1. 7 (水) 13:05~13:45

1. 電子的情報資料の購入予算について、資料利用者から利用料金を徴収し、購入費の不足分に当てることについて審議の結果、平成10年度から実施することとし、図書館委員会に諮ることになった。

図書館委員会

1. 7 (水) 14:00~16:15

1. 次期附属図書館長候補者として、西原浩工学部教授を選出し、総長に推薦することになった。
2. 電子的情報資料の購入予算について、電子情報サービス検討委員会において、平成10年度から利用料金を徴収し、購入費の不足分に当てることとした件について審議の結果、了承した。
3. 図書目録の遡及入力について審議の結果、必要な経費を共通事業費で要求することが了承された。

吹田地区運営委員会

2. 16 (月) 10:30~11:45

1. 次期吹田分館長候補者の選挙について、投票の結果、岸田敬三工学部教授が次期吹田分館長候補者に選出された。
2. 「電子情報サービス利用の手引」の内容について、審議し承認された。
3. 自然系特別図書の選定について、平成10年度についてもオープンユニバーシティ・ビデオ集成を選定するが、最終的には新年度に再度審議する事になった。

■■■■ 日 誌 ■■■■

(学術情報センター)

(本 館)

(本 館)

(静岡大学)

(生命科学分館)

(生命科学分館)

(吹田分館)

(学術情報センター)

- H 9.12.16 第3回総合目録委員会
H10. 1. 7 電子情報サービス検討委員会
図書館委員会
1.22 平成9年度国立大学附属図書館事務部長会議
1.29 平成9年度大阪大学附属図書館職員研修会
2.10 図書館情報システム特別委員会
平成9年度第4回ILLシステム専門委員会
2.16 吹田地区運営委員会
2.25 課金委員会